

街のランドマーク的存在 白い大開口のある黒い家

子を授かり、新居づくりに乗り出したKさん。だがスタート時点では建築地も、任せる建築設計事務所も決まっていなかった。

「ハウスメーカーに二世帯住宅を建ててもらおうかとも思ったんですが、建築関連の仕事をしていた母から、地元の建築家を捜して一から設計してもらったほうがいいと言われて。若山さんは夫がインターネットのHPで見つけました」

他の事務所や工務店も数軒訪ね、施工例を吟味した上で、若山さんに家づくりを委ねることに。折よく、夫人の実家近くに土地を得ることもできた。

「Kさんの要望は具体的でした。周囲と同じような家でなく、ランドマークになるようなデザインを。南に大きく開口し、ウッドデッキと芝生敷きの庭をフェンスではなく植栽で目隠ししてほしい」

建築雑誌の切り抜きを手に理想を語るKさんに、建築家はこんな手法で応えた。

ほぼ総二階でありながら、通りに面した二階を四五cmほどオーバーハ



1/ 植栽などの外構工事を終えた現在の姿。ランドマークとなるように、フェンスではなく植木で目隠しを、という施主の要望が満たされている。
2/ 東端から見たLDK。無垢材の床と、現しの梁がナチュラルな印象だ。壁はビニールではなく、呼吸する紙クロス貼り。右奥がダイニングで、木製の収納棚がリビングからの目隠しに。手前の開口は2.5畳の和室。
3/ リビングと同レベルでつながるヒノキ製デッキ。深い軒と袖壁があるので、雨の日でも窓を開けられる。ハンモックを吊ってくつろぐことも。